真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	真岡木綿保存振興事業		担当課・係	産業部　商工観光課　観光係	
政策名　No	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ！～	関連する SDGs･DX		DX
施策名　No	4	観光の振興			

成果指標	名　称	単　位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
	木綿会館来館者数	人	13,617					
	木綿製品販売額及び体験料金収入	千円	9,723					

事業内容

木綿会館は、平成19年度に真岡木綿の機織や染色等の体験事業によって、真岡木綿の更なる普及推進を図り、観光の振興に資することを目的として平成20年4月に開館した。平成30年度に再整備事業によりｼｮｯﾌﾟ床面積約77平米、ｳｯﾄﾞﾃﾞｯｷ約93平米等を増築した。
指定管理者として、平成25～29年度は真岡商工会議所、平成30年度からは真岡市観光協会が管理運営を行っている。
R5.4.1に指定管理の更新を行い、現在の指定管理者も真岡市観光協会、指定期間はR5.4.1からR10.3.31。
R5からは指定管理料の精算制を導入し、維持管理費の余剰分と売上ノルマ未達分を指定管理者から返還させている。
【施設概要】
構造：鉄骨2階建瓦葺
１階：生産・見学工房、染色・染色体験工房、展示ホール、事務室、倉庫等
２階：機織体験工房、機織体験レクチャー室兼会議室、給湯室等
開館時間：午前10時～午後5時まで
休館日：毎週火曜日休館、但し祝日の場合は翌日。年末年始（12/29～1/3）

前年度の課題（Check）

来館者数は前年比約２０％増となったにも関わらず、販売額が比例せず約２％減となっている。
また、来館者数についても、コロナ禍前の令和元年度の基準には及んでいない。
今後は、織姫の確保や木綿製品のＰＲを強化し、来館者数だけでなく販売額の増加を図る。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業

真岡木綿の保存と織姫の育成を支援し、真岡木綿の機織や染色体験を活用した普及振興を図る「真岡商工会議所」の支援。
【真岡木綿会館指定管理】
・10,403,159円で年度協定を締結し、指定管理業務を実施。
　主な業務内容はショップの運営、自主事業として久保邸こどもの日、木綿と魔法のハロウィンマルシェ（周年記念）、
　久保邸クリスマスといった久保記念館事業を木綿会館も使用し実施。
・ショップにおける利益ノルマを799,453円に設定。
【真岡木綿保存振興】
・綿の育成から機織りまで手作業で行い、真岡木綿の反物を織る。
・機織りや染色体験の実施。
・反物を販売、若しくは加工し木綿製品にして販売。
・織姫在籍数１３名（研修生含む）
・「真岡木綿第２工房」を旧東沼小学校から真岡駅４階に移転、この場所で養成講座を実施した。また、真岡木綿の紹介パネルも展示。
・６月に養成講座受講生の募集を行った。
【真岡木綿織姫育成】
・市認定技術者になるまでの研修生に対し、真岡木綿の歴史や文化について学び、機織りや染色等の技術研修を行った。

【２】結果と課題（Check）

木綿の反物を安定的に供給するために、織姫人数の確保と一人ひとりの技術向上が必要。
栃木県の伝統工芸士である織姫に反物の供給を頼っている部分があることから後継者の育成とその技術の継承が課題である。
今後も真岡木綿を持続的に発展させていくためには、若い世代への真岡木綿についての認知度向上が必要である。
【真岡木綿会館指定管理】
・入館者数は13,617人と前年度と比較し1,167人減少。
・ショップにおける売上4,473,972円と前年度と比較し548,936円増加。
　利益は905,764円でノルマ（799,453円）達成。
・１階生産見学工房の空調機が故障。
【真岡木綿保存振興】
・木綿製品の売上額と体験料金の収入は9,723,606円
・養成講座の受講者は２名応募があったが１名辞退した。結果、織姫在籍数は１名増加し１４名（研修生含む）となった。
・真岡のふるさと遺産である真岡木綿を今後も継続、発展させていくためには若い世代に対する認知度の向上が必要。
【真岡木綿織姫育成】
・３名の育成支援対象者が令和７年度の研修を完了した。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
【真岡木綿会館指定管理】
・１階生産見学工房の空調機改修工事を４月に着工。夏場における入館者、さらには織姫の作業環境の改善を図る。
・１１月頃、中学生のアイディアにより製作した真岡木綿の新商品をショップにおいて販売し、売上向上を図る。
【真岡木綿保存振興】
・令和８年度は真岡木綿復興４０周年を迎えることから記念事業として、中学生からのアイディアを募集し真岡木綿の新商品を１１月までに製作し販売することで、若い世代への認知度向上、さらには、真岡木綿製品の売上向上を図る。
・真岡木綿の技術継承、長期的な後継者育成のための財源確保を検討するため、織姫との定期的な打合せを行っていく。

（2）長期的な計画で検討すること
【真岡木綿会館指定管理】
・ショップの売上を向上させることで、自主財源を確保し指定管理料の予算削減を図る。
【真岡木綿保存振興】
・木綿製品の販売収入、体験料金収入を向上させることで、自主財源を確保し指定管理料の予算削減を図る。